

49

神道政治連盟京都府本部会報
平成22年11月9日発行(年2回発行)

清
せい せい
政

御製

日の暮れし

広場に集ふ

人と聞く

心に染むる

「太陽の国」

創立四十周年記念号



語 | 勅 | 育 | 教

朕ちん惟おちフニ我わカ皇こう祖そ皇おう宗そう國こくにヲ肇はじムルコト宏こう遠えんニ德とくヲ樹たツルコト深しん厚こうナリ我わカ臣しん民みん克よくク忠ちゅうニ克よくク孝こうニ億おく兆ちやう心しんヲ一いつニシテ世よ世よ厥せノ美びヲ濟なセルハ此こレ我わカ國こく體たいノ精せい華かニシテ教き育よくノ淵えん源げん亦また實じつニ此こニ存ぞんス

爾なん臣じしん民みん父ふ母ぼニ孝こうニ兄けい弟ていニ友ゆうニ夫ふう婦ふ相あ和わシ朋ほう友ゆう相あ信しんシ恭きやう儉けん己おのレヲ持じシ博はく愛あい衆しゅうニ及およホシ學がくヲ修おさメ業ぎやうヲ習ならヒ以もつテ智ち能のうヲ啓けい發はつシ德とく器きヲ成じやう就じゆシ進すすんテ公こう益えきヲ廣ひろメ世せい務むヲ開ひらキ常つねニ國こく憲けんヲ重おもシ國こく法ほうニ遵したがヒ一旦いつたん緩かん急きゆうアレハ義ぎ勇ゆう公こうニ奉ほうシ以もつテ天てん壤じやう無む窮きゆうノ皇こう運うんヲ扶ふ翼よくスヘシ是かくノ如ごとキハ獨ひとリ朕ちんカ忠ちゅう良りやうノ臣しん民みんタルノミナラス又また以もつテ爾なん祖じそ先せんノ遺い風ふうヲ顯けん彰しやうスルニ足たラン

斯こノ道みちハ實じつニ我わカ皇こう祖そ皇おう宗そうノ遺い訓くんニシテ子し孫そん臣しん民みんノ俱ともニ遵じゆん守しゆスヘキ所ところ之これヲ古こ今こんニ通つうシテ謬あやまラス之これヲ中ちゆう外がいニ施ほシテ悖もじラス朕ちん爾なん臣じしん民みんト俱ともニ拳けん拳けん服ふく膺ようシテ咸みな其その德とくヲ一いつニセンコトヲ庶こい幾ねがフ

明治二十三年十月二十日

御名 御璽

宣言・綱領

わが日本国の現状は、内に外に誠に憂念禁じ難きものあり。よつてこの際、神道の精神を以つて志を同じゆうする者相はかり、民族の道統を基調とする国政の基礎を固め、且つその姿勢を匡さんがため、ここに神道政治連盟を創立し、次の綱領五ヶ条の実現を期する。

- 一、神道の精神を以て、日本国国政の基礎を確立せんことを期す。
- 一、神意を奉じて経済繁榮、社会公共福祉の發展をはかり、安国の建設を期す。
- 一、日本国固有の文化伝統を護持し、海外文化との交流を盛んにし、雄渾なる日本文化の創造的發展につとめ、もつて健全なる国民教育の確立を期す。
- 一、世界列国との友好親善を深めると共に、時代の弊風を一洗し、自主独立の民族意識の昂揚を期す。
- 一、建国の精神を以て無秩序なる社会的混乱の克服を期す。

創立四十周年を迎えて

神道政治連盟京都府本部

本部長 林 秀 俊

神道政治連盟京都府本部創立四十周年の節目に当たり聖寿の万歳と皇室の弥栄を同志の皆さまと共にご祈念申し上げます。

昨年政界の再編により政権が民主党に替わり、世の中では子殺し親殺し、無差別殺人、かつてありえなかった犯罪がしきりに報道され、やたらと権利を振りかざす「さもしい人間」が闊歩し、わが国は何やら閉塞感に包まれこの国はどこへ行くこうとしているのか全く不安極まりない有様であります。

昭和四十四年に神道政治連盟が結成され、京都府神社庁においても府下神職同意のもと、翌四十五年十一月九日神道政治連盟京都府本部が結成されました。以来神社庁とは表裏一体の関係を保ち、ご指導を仰ぎながら活動を推進致しております。この四十年間にわたり皇室の尊厳護持を第一に掲げ、伝統と文化を守り日本の歴史を正しく伝えるため、成し遂げられてまいりました諸活動、実績に心より敬意と感謝を申

申し上げます。当時の神職は、紀元節の復活、建国記念の日制定に向け並々ならぬ努力をされ、政界、関係機関との連携の必要性を痛切に感じ、神社本庁評議員会において斯界の総意として神道政治連盟が結成されたのであります。戦後日本は、米国による言論統制、いわゆる「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム（WGIP）戦争の罪の意識を日本人に植え付ける宣伝計画」により心の隅々まで負のマイナドコントロールがなされ、戦前のすべての日本文化を否定しかねない思想教育が浸透しつつありました。神社界は、日本の将来に危惧を抱き、荒廃しつつある日本人の美しい心を、神道精神をもって取り戻すべく立ち上がったのであります。

こうして長年の懸案であった米国の思想統制からの脱却を夢見、GHQの手に入った教育基本法も四年前安倍政権において六十年ぶりに改正されました。しかしこうした成果が捻りつ

あった矢先、政権与党であった自民党は、衆議院選挙においてマスコミの扇動により世論を味方につけた民主党に大敗を喫し下野してしまいました。結果、左派労働組合の集結、全共闘、日本赤軍残党の閣僚内閣が誕生してしまつたわけでありました。またもや揺り戻しが始まり左傾化している現状は否めない事実であります。

本年の終戦の日を目前にする八月十日には、今年日韓併合百年を迎えるにあたり、菅総理は十分な議論もせず、多くの反対を押し切り謝罪談話を発表しました。日韓併合条約を合法的に交わしたにもかかわらず、日本の韓国統治は「その意に反して行われた植民地支配」「国と文化を奪い」とは、全くの虚構にすぎません。菅談話は、わが国の名誉と国益を大きく損ねた村山談話、河野談話に続く最大の汚点を残したと言わざるを得ません。

政権交替後初の「八月十五日」を迎えた民主党は、数名を除きほぼ全員が靖國神社に参拝せず、閣僚に至っては岡田外相の音頭による「中韓に配慮し参拝しないように」との通達で誰一人参拝しなかった事実に対し強い憤りを感じております。祖国を、そして家族を護りたいという純粹な気持ちで命を捧げ、靖國神社に祀られる事を心の拠り所として散華された英霊に対する、裏切り、背徳行為の何物でもありません。菅総理は、A級戦犯が合祀されて

いるからと理由を述べていますが、WGIP政策の強い影響の下で行われた東京裁判による罪状であり、指導的立場であった人も決して私利私欲で戦つた訳ではなく同じ志であったことは、後の全会一致の国会赦免決議に現れているのであります。英霊に対し分け隔てなく「感謝」と「敬意」を表すことこそ総理大臣、閣僚、政治家の最も身近で大事な務めであると思っております。

当本部では、三十周年を機に当時の田中恒清本部長の肝いりにより、靖國神社、沖繩、府下において毎年厳粛裏に英霊顕彰事業を取り進めてまいりました。若くして散華された英霊の心を偲び、しっかりと後世へ伝えていくことこそが私達神政進に課せられた使命であると認識いたしております。

また本年は、教育勅語漢文百二十年の意義深い年に当たり、品格ある国家と日本人を育んだ源泉、教育勅語の精神と、日本の郷土を身をもって守られた崇高なる英霊の精神とを顧みて、止まらぬ日本の心の荒廃にしっかりと歯止めをかけ取り戻すことこそ最重要課題であると思っております。

今後とも斯界と会員各位の倍旧のご支援ご協力を賜りますこと切にお願い申し上げます。さらなる五十周年に向け結束を固め強固なものとしてまいります。

取り戻そう、 教育勅語の精神

創立四十周年実行委員会
実行委員長 竹内 幸平

昭和四十五年十一月九日に当本部が結成され、地道な活動を続けながら四十周年を迎えました。本連盟の活動は地味ではありますが、先輩方の努力により大きな功績を残してまいりました。

さて、今日の政治社会は混沌と王道義面、精神面も混迷を極めています。永住外国人参政権、夫婦別姓の問題等は、文化伝統を破壊し、国家の転覆をもたらす恐れがあります。外交では、諸外国に媚付かれれば一方的に日本が悪いとばかり謝罪し、果ては扱いやすい国と蔑まれ、国の尊厳を損ない国益を失うばかりであります。国民の意識も目先のことばかりに心を奪われ利己的となり、人を敬い思い遣る心を喪失してしまっています。その根元は歪んだ教育であり、それを学び育った世代が、指導者となり、立場を利用して国民に間違った価値観を浸透させているためであります。

顧みれば、明治の代も文明開化、功

利主義により、それまでの日本を否定する風潮が天下に満ち、教育が混乱する状態がありました。この風潮を看破し、教育の大経を闡明（せんめい）せられたのは、明治天皇であらせられ、天皇の思召をもとに、国民の抱えるべき精神的基礎たる「教育に関する勅語」が発布されました。教育勅語の意義は、「日本の教育は伝統に由来する国体に基づく事、日常生活に於いては、身に行ってゆくべき道が示された事、この道は祖先の遺風、皇祖皇宗の遺訓であり国民の守るべきところ」とされ、さらに「今も昔も変わらぬ道、外国にも通ずる道を陛下も国民と共に遵守し、徳を一にすることをお望みになられた事」であります。

混乱する教育界に方向性を示され、国力を培ったことはいまでもありません。日清、日露、大東亜の戦争で陸や海を紅に染め国に殉じた英霊の心の支柱は教育勅語であったといえます。明治以降の潜在力は、教育勅語に示された、皇国の道義の闡明であり、道義のためには身を抛（なげう）って殉せんとする志であります。

国家を動かす指導者また国民は目醒めて欲しい、教育勅語が教学の基本となり、日本が品格のある強い国に復興するよう「取り戻そう、教育勅語の精神（こころ）」を掲げ、同志と共に五十周年に向け頑張りましょう。

創立四十周年記念事業計画

- 一、京都府戦歿慰霊祭の斎行
平成二十二年十一月九日
- 一、記念大会の開催
平成二十二年十一月九日
- 一、京都府議会議員懇談会の発足
平成二十二年十一月九日
- 一、特別記念講演会の開催、講演録の発行
平成二十二年十二月十九日
- 一、沖繩・京都の塔案内看板の設置活動
平成二十三年二月二十七・二十八日
- 一、靖國神社京都出身戦歿者慰霊祭の斎行
平成二十三年三月二十一・二十二日
- 一、清政記念号の発行
平成二十二年十一月九日
- 一、FAX宅急便補遺編の発行
平成二十二年度中
- 一、社頭国旗掲揚奨励活動
平成二十二年度中
- 一、その他必要な事業

更なる活躍を期待して

京都府神社庁長 田中 恒清

神道政治連盟京都府本部創立四十周年を言祝ぎ、心よりお祝い申し上げますと共に、今後益々のご活躍とご発展をお祈りいたします。

さて、神政連の宣言・綱領に示された使命と役割は誠に重いものがあり、私たちはこれら宣言・綱領の実現を期しつつ、その実践活動に邁進しなければなりません。

現下の我国の政治状況は、正に憂念禁じ難き極みであり、戦後国民が昭和天皇の大御心を心として一心不乱に国家の存亡をかけ、一致団結して復興に努力し、世界からは驚異的成長と賞賛されたあの気概は今や消え失せ、「二位ではダメなんですか」等と真顔で言う閣僚まで現れる始末であります。

戦後六十年に亘って政府与党の座にあった自民党が、遂に国民から見放されて下野し、代わって寄り合い所帯の民主党が与党の座に着きました。所謂「マニフェストと呼ばれる」絵に描いた餅を、多くの善良な国民が信じようとした結果でありました。

民主党政権が誕生した時、安倍元総理はすかさず「陰湿な左翼政権」と指摘されたように、今やその本性が日々の政権



運営に表れてきています。バラマキ政策で国民の関心を引き、一方では強権的発言や行動で圧力をかける等、かつてのソビエトや東欧諸国で吹き荒れた社会主義政権を想起させるものであります。

特に外交防衛問題では、国家の基本に係る重大な失政を繰り返して、国益や主権は自らの浅薄な考えで簡単に放棄し、国民の生命財産を護ると言う国家として最重要な使命をも遂行せず、専ら政権運営を単なる市民運動の延長線上にしか捉えられない首相や、学生運動で成し得なかった自らの偏狭なイデオロギーの実現しか頭のない官房長官等々、今や国家沈没の危機的状況にあります。此処に至って真正保守勢力の奮起と再生こそが急務であり、不安を抱く多くの国民の力を結集し、政権を速やかに取り戻さねばならない秋であります。

政治は「まつりごと」であり、神道精神を政治の基礎に据えた国民運動を展開する神道政治連盟の使命と役割は、今も尚重かつ大なのであります。

結びにあたり神道政治連盟京都府本部が、林秀俊本部長を先頭に愈々活躍される事を期待し、お祝いのご挨拶にかえさせていただきます。

神道政治連盟京都府本部 創立四十周年を祝して

神道政治連盟 会長 長菅我部 延昭

神道政治連盟京都府本部が創立四十周年の佳節を迎へられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、時恰も教育勸語発布二十年に当たると意義深い年に、貴本部がこのやうな記念すべき周年を迎へられましたことは、誠に慶ばしいことと存じます。

顧みますと、日本が高度経済成長期の中にあつた昭和四十五年、貴本部が神政連の地方組織として発足され、爾来四十年、変はらずその活動を続けて来られましたことに、あらためて敬意を表する次第です。

戦後、GHQの占領下において新憲法が制定され、自由や平等、権利の追求などを至上とする戦後民主主義のもと、我が国が長い歴史の中で育んできた文化や伝統に根差す価値観の軽視される傾向が蔓延り、国民生活に深く浸透して来てをります。その結果、皇室の尊厳を軽んずるやうな風潮が一部に拡がり、偏つた歴史観による教育とも相俟つて、国を愛する心の持てない国民が生み出され、国民道徳に悪影響を及

ぼしてあります。また、私の利益を優先して公の利益を疎かにする風潮や、経済至上主義の蔓延により、昨今の世相が大変荒んだものとなつてゐることは、既に周知のこととせう。

安倍政権下の諸政策では、戦後体制からの脱却が漸次図られてゐたものの、かかる政策に対する国民の評価は厳しく、昨年の政権交代により、これまで歯止めをかけ、戦後失はれたものを取り戻すべく活動して来た成果が後退しかねない、極めて厳しい状況となつてゐます。かかる現状を打開する為には、我々の国を想ふ情熱と力とが今こそ必要とされてゐることは論を俟ちません。その為には、その力を結集すべく、より一層の組織活動の充実が求められます。

創立四十周年に際しまして、貴本部があらためて結成の趣意に立ち返り、赤誠溢るる御熱意を以て、世界に誇る日本の文化・伝統を後世に正しく伝えるべく、今後益々発展していかれることを祈念し、御挨拶とさせていただきます。



神道政治連盟京都府本部 創立四十周年を祝して

自由民主党 総裁 谷垣 禎一



神道政治連盟京都府本部の創立四十周年を心よりお祝い申し上げます。
京都府本部の永年にわたる皇室の尊厳維持運動、教育正常化運動、伝統文化の継承維持運動等のご活動に対し衷心より敬意を表します。

平素より自由民主党に対しまして深い御理解と御指導を頂きました。一貫した御支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

京都府本部は建国記念の日の制定運動を契機として設立された神道政治連盟にいち早く呼応して発足され、爾来、地道な御努力により国旗・国歌の法制化が実現するなど目覚ましい御実績を上げられてこられたことを私も自由民主党は、今後も深く心に刻み歩んで参りたいと存じます。

自由民主党は昨年の総選挙で野党となりました。その後、私は野党党首として先般の参議院通常選挙に臨み、神界を始めとする多くの皆様からご支援を賜り、改選比較第一党となる議席を与えていただきました。
しかし、ここで選挙結果に驕ること

なく、国民の皆様から頂いた信頼と期待にお応えし、責任ある政策を通じて、御約束した「誇りと自信に満ちた国づくり」に邁進し、政権奪還を果たして参りたいと存じます。

そして、わが国の歴史と伝統、文化を重んずるおらかな保守主義の下、品性ある国民、品格と活力のある有徳の日本を創つてまいりたいと強く決意をいたしております。

京都府本部の皆様の一層のご指導とご鞭撻とご助力を切にお願ひ申し上げます。

最後に、第二次世界大戦後の厳しい状況の中から筆舌に尽くしがたい幾多の苦難を乗り越えて、祭祀の厳修と継承に努めてこられた神社界の皆様には重ねて敬意を表すると共に引き続き日本人としての伝統、文化、精神を後世に伝えて頂き、京都府本部が一段と活発な御活動を今後も展開されますよう御期待申し上げ「神道政治連盟京都府本部創立四十周年」に寄せる言葉といたします。

祝 辞

京都府議会 議長 林田 洋

神道政治連盟京都府本部創立四十周年にあたり、心からお慶び申し上げます。

昭和四十五年の発足以来、神道精神の大切さを訴える様々な運動に取り組み、今年で四十年という大きな節目を迎えられましたことは、ひとえに、林本部長様をはじめ、関係の皆様方の御努力の賜物であり、深甚なる敬意を表する次第であります。

また、昨年は、天皇陛下御即位二十年の慶賀の年にあたり、京都では京都府神社庁の方々を中心に、京都府民挙げての奉祝大会が盛大に執り行われました。私もその場に参加させて頂いたとき、会場内の皆様がお祝いすることができ、その一体感に深く感慨を覚えたところであり、またその中心的な役割を担われた貴本部の御活動を目のあたりにいたし、皇室の尊厳維持への大いなる御貢献、御尽力に改めて敬意を表する次第であります。

さて、この十年を振り返りますと、京都府をはじめ内外に多発する自然災害や疫病などが甚大な被害をもたらしたリーマン・ショックに端を発した世界的な金融危機による国民生活の停滞な

ど、我が国は大きな変動の時代を歩んでおります。

このように様々な課題を抱えておりますが、我が国の平和はもとより、人々の暮らしに平安と希望、そして未来を担う子どもたちが夢を持つよう、私たちそして社会は、力をひとつにし事に取り組みることが重要であります。

十年前の創立三十周年記念の際には、私の父である故・林田悠紀夫が京都府神社総代会会長としての祝辞を寄稿させて頂いたとき、「参議院は今や政党化しており、本来良識の府でなければ存在意義はない」と述べていますが、近年政党化の傾向がますます強まるのが危惧され、日本の政治体制のあり方が問われていると私は考えます。どうか貴本部におかれましては、これからも混迷する日本の政治の中にあつて、国民精神の昂揚のための諸活動を二層推進されますことを御期待申し上げます。

結びに、神道政治連盟京都府本部が、ますます御発展されますことを御祈念申し上げますとともに、皆様方の更なる御活躍、御健勝を心からお祈り申し上げます、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

京都府神社総代会 会長 荻巻 禎一



神道政治連盟京都府本部創立四十年、誠におめでとうございます。衷心よりお祝詞申し上げます。

四十年前の昭和四十五年を振り返りますと、まず思い浮かぶのは、大阪万博が「人類の進歩と調和」をテーマに開催され、六四〇〇万人余りの入場者で賑わい、日本の科学経済成長を世界にアピールしたこと。三島由紀夫が、市ヶ谷の自衛隊駐屯地で自衛隊員の決起を叫んで割腹死したこと。ニクソン大統領により、ベトナム戦争がカンプuchia領内まで拡大したこと。いわゆる赤軍派が、日航機よど号をハイジャックして、赤軍派犯人を釈放させて北朝鮮の平壤へ逃避したこと。などです。

あれから四十年、日本も世界も時代は大きく変化しました。しかし、変わったようで、歴史は繰り返すというか、本質は変わっていないように思えます。万博は今年、上海世界博として、中国のめざましい大躍進を世界に発信させています。ベトナム戦争は終

わったが、アメリカの世界貿易ビルの九・一一テロを引き金に、アフガン、イラク戦争が起こり、米軍引き揚げと言いながら、自爆テロなど頻発し、先がまだ見えない情勢です。

神道政治連盟が結成されたのは、戦後の占領政策や東京裁判史観により、良き日本の伝統や公序良俗が全否定され、教育の荒廃、権利のみの主張で責任を負わぬ風潮から生ずる諸々のひずみを、神道精神に基づいて、政治の面からも正そうということであったと聞いています。しかし、四十年経った現在、この問題は更に深刻化し、昔なら想像できなかったような事件、現象が続出し、報道を賑わせています。神道政治連盟は、この四十年間常に問題提起して対応して来られましたが、更にその活動が望まれる時期であります。

創立時の思いを常に想起しつつ、次なる五十周年へ向かってご活躍されることを切に願うものであります。

創立四十周年記念表彰 記念表彰状並びに感謝状贈呈者

表彰状贈呈者

■特に会員増強に努めたる功績の支部
乙訓支部 綴喜支部 船井支部

■役員経験者三十周年既表彰者を除く

- 田中 恆清殿 松吉 真幸殿
- 高井 和大殿 本田 享史殿
- 進藤 秀保殿 鳥羽 重宏殿
- 磯部 明殿 鷹野 尚志殿
- 齋藤 俊子殿 澤井 隆男殿
- 文室 隆紀殿 中小路宗廣殿
- 坂根 穆殿 山田 敦子殿
- 脇阪 卓爾殿 小松 明殿
- 花房 昭子殿 牧 宏明殿
- 岸本 良枝殿 宇佐美伸二殿
- 赤木 尊文殿 鈴鹿 隆男殿
- 室田 一樹殿

■本部長推薦者

- 船井支部 松岡藤五郎殿
- 船井支部 川勝多嘉志殿
- 北桑田支部 松本 和宏殿
- 綾部支部 久保 健治殿

感謝状贈呈者

■財政基盤特別協賛神社

- 伏見稻荷大社
- 石清水八幡宮
- 平安神宮
- 八坂神社
- 北野天満宮
- 松尾大社
- 賀茂別雷神社
- 賀茂御祖神社
- 吉田神社
- 城南宮
- 愛宕神社
- 貴船神社
- 岩屋神社
- 籠神社

■特に顕著なる功績の団体

- 皇室尊嚴護持活動
- 京都府敬神婦人連合会殿
- 京都府神道青年会殿
- 京都府氏子青年連合会殿
- 英靈顕彰活動
- 沖繩県神社庁殿
- 株式会社公益社殿

特別対談

野に下った自民党において、獅子奮迅の活躍を見せる西田昌司参議院議員と、当本部林本部長とが、混沌とした政治情勢の行く末について、英霊の顕彰について、教育の問題について、膝を交え語り合った憂国の対談。

林 本部長

秀俊



西田 参議院議員

昌司



林

本日は大変お忙しいところお時間を割いていただきありがとうございます

西田先生が参議院議員に就任されて四年目を迎えられるわけですが、ご就任後は直ちに神道政治連盟国会議員懇談会にご参加をいただき、昨年は幹事にご就任いただき、地元といたしましても大変嬉しく思っております。

私ども神道政治連盟京都府本部も、戦後のGHQの指導によって、日本の文化、特に精神的文化などが言論統制によって荒廃してゆくという過程において、日本の心をなんとか取り戻さなくてはいけないということで結成され、今年で創立四十周年を迎えさせていただきました。西田先生は、参議院議員に出馬される際に「伝えよう、美しい心と国土」「日本の背骨を取り戻そう」というスローガンを掲げていらつしやいま



した。私ども神政連の志と一にするところがあると思っております、これらの教育のあり方等についてのお考えなど、この機会にぜひお聞かせ賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

西田

ちょうど私が立候補したときが安倍総理でした。その総理が掲げていらつしやつたのが「戦後レジウムからの脱却」であり、ちょうど私の申し上げていたことと同じでしたので、非常に心強い気持ちで国政に上がったわけです。ところが消えた年金など様々問題が持ち上がりまして、総理をお辞めになったことはと

ても残念でした。安倍総理がおやりになった最大のことが教育基本法の改正でしたが、この重要さが国民の皆さんに伝わり、理解されたのかどうかがわからないですね。安倍さんがおっしゃっていたのは、戦後教育は占領政策の下で教育基本法が作られ、日本の伝統文化を教えることが、タブーのようになっていたけれど、そこをしっかりと教えるということが大切で、愛国心も含めた「故郷を愛する心」を教えるということなのです。法律は通りましたが、日教組とかは絶対反対なわけです。つまり日本人の愛国心とか伝統文化というのは、かつて天皇陛下の名の下で戦争を行ったことと繋がっていると思ひ込んでいるんですよ。何とか反対したいが為に、年金問題などという安倍総理には直接関係のない問題で、いわば謀られて倒れたような具合になってしまった。

いまの日本が底割れしている原因は何かというところ、戦争に負けて自分

たちの立ち位置が見えなくなっていることですね。人間というのは、両親があつて、その親にはまた両親がいてという具合に、代々受け継がれてきました。日本の歴史をずっと辿れば何代も続いている、しかも日本には天皇陛下が居られますよね。その天皇陛下というご存在が伝統の象徴ですね。その祖先が、天照大御神という神話の世界につながり、もつと辿れば地球や宇宙の誕生にまで行き着くということ。つまりそういう神話にまでつながる流れの中で、この国があり、そして現在もなお皇室というかたちで続いているというのが他所にはないことです。こういう大きな存在であるということが、どうもきちつと伝わっていない。



西田

神道政治連盟の皆さん

は、皇室の崇敬を中心に据えられているのは当然でしょうけれど、そのことが日本の伝統そのもので、そういう長い歴史は「相統」ということで成り立ってゆくということであって、決して革命や奪い合いで成り立っているのではない。歴史的には小さな戦乱はありましたが、こうした長い伝統は脈々と受け継がれてきた誠にありがたい環境で育った国なのです。そういう意味でもこれからの教育の柱として考えるべきなんです。宗教教育ということもあるかもしれませんが、その前にあるのは家庭の意識の問題だと思えますね。つまり各家庭には両親がいてそのまた両親がいて・・・という流れがあるわけです。もちろん皇室のように百数十代にもわたらなくてもいいんだけれど、少なくとも何代か前の話がわかるはずなのに、いまのような核家族ではそれすらわからない。もつといえ、そういう面倒なことを伝えるよりも、私たちはこうしてやってきたけれど、子供たちはそれぞれ好きなようにすればいい、商売も家も継がなくていいとかというような、個々別々な生き方の仕組みを戦後の社会は作ってきてしまった。たいへ

ん利己主義的な考え方でですね。時代がずつと背負ってきたものの中にこそ大切なモノがあるんじゃないか、という価値観。それは皇室にももちろん繋がってまいりますが、もつと言くと、そういう存在を認めると自分謙虚になりますね。自分がいる前にはそういうものがある・・・謙虚さをもってお互いみんな助け合おう。そういう社会こそ日本人がいちばん目指してきたことだし、教育でいちばん大事なことだと思っております。私の演説会でもよく申し上げますが、結局は「忠」と「孝」に戻ってくることになりました。つまり、永い繋がりを背負っていくということと、そこを教育の中で教えていかなければならないと思えますよ。実際には教えるというよりも、感じられる話なんですけれどね。

林

なるほど、外国の王室は、何百年も略奪や戦争を繰り返して来ているわけですが、日本の場合にはまったく違いますね。京都の御所を見ればわかりますように、だれでも攻め込めるような街中であって、しかも、小さな溝や堀だけで囲まれた場所になっています。そんな身近な場所から私たち国民の生活を見届け

て頂いてきたという、誠にありがたいことです。こうした教育の問題も神政連では重要な基礎事項として位置付けているのですが、あとは英霊顕彰です。靖國問題と英霊顕彰のことを、次の世代にしっかりと伝えていかなければならないと思っております。遺族会の方々も大変高齢になってきておりますし、「いま、我々の平和がなぜこうしてあるのか」ということを、後世にしっかりと繋げていかなければならないかと思うわけです。そういうことで、当本部では戦没者慰霊祭を積極的に続けさせていたいただいているわけですが、民主党政権になつてからは、靖國神社へ関係が誰一人参拝しなかつたり、あるいは日韓併合百年の首相談話は村山談話・河野談話に続くさらに酷い謝罪談話であったりと憂慮すべき有様です。「なぜ、このような戦争が起こつたのか」ということを、その時

代に遡って、しっかりと考えなければならぬと思うんです。みんな、一方的に我々が悪いんだからこういう結果になったんだとか言わない。やはり歴史を考えるとときには双方の、つまり日本の立場、向こうの立場という、この双方の立場を考えて語らなければいけないと思うのですが、どうもいまは片務的な視点でしかモノを語らないというのが現状ですね。

西田先生のホームページのビデオレターの中でも、日韓併合百年の首相談話が発表されたおりメッセージを流していらっしゃいましたが、ここでもういちど西田先生のお考えをお聞かせいただけたらと思います。



西田

僕も小さな頃に素朴な疑問がありました、日本

はなぜアメリカと戦争をしたのだろうか。アメリカのような大きくて立派で強い、日本が目標として頼りにもしているような国と戦争をするなんて、昔の大人たちは馬鹿なんじゃないかと子供ながらに素朴な疑問があって、母に尋ねたところがありました。ところが母も「私もよくわからないから学校へ行って先生に聞いてみなさい」というんです。ちょうどその当時小学校一年の私の担任の先生が戦争に行っていたので、私の疑問を聞いたら先生は「西田君、それは君が大人になってから考えなさい」(笑)という。その後、大人になってからも、京都府議会議員になった三十一歳の時にも、そのことがずっと頭のどこかに残っていましたね。

このことについては、林房雄という作家が書かれた「大東亜戦争肯定論」が一番解り易いですが、ここでは「東亜百年戦争」というふう



に理解されています。つまり日本は今から百五十年前の一八五三年、ペリーが来て開国しろと言われて、開国しなかつたら江戸を攻撃するぞと言われて開国となった。無理矢理こじ開けられて、その後、明治維新と

自分と自分の国の立場も何も無しで、今言っているのは勝った方、日本の国以外の立場で、徹底的に日本の近代史が教えられてきたわけです。そうするとなぜ戦争したかもわからない、戦争が終わって負けた後になぜこんな言論ばかりになっているのかも分からず、ずっと来ているんですね。つまり、日本は百五十年前から大きな帝国主義の勢力に巻き込まれて自衛の戦いをやったけれど、負けた後はそういうことも全部忘れてしまっ

たかという、戦勝国なんですよ。しかも一番まずいのは、戦勝国が作った体制の中で得をしている日本人もたくさんいることです。つまり、戦後利得者の体制になってしまったということですね。そのことをおかしいという人間はすべて排除され、言論的には封殺されていくという仕組みなんです。ここに問題があるのだけれど、そういう体制がずっと正しいものだ、六十年間にわたって言い続けてきたので、なかなか解ってもらえない。それどころか反対におまえちよつと右翼と違つか・・ということになるでしょ。





西田

でも、ありがたいこと

にね、尖閣諸島の問題も
そうなんです。戦争を

否定し暴力を否定し過去を反省さ
えておけば、日本は平和になると
教えられた体制が如何にでたらめで

あるのかということが、目の前で
次々と起きていくわけです。中国
は、自分たちの経済力・軍事力が
整った瞬間に非常に暴力的な外交圧
力をかけてくるという、滅茶苦茶横
暴なことをしてきてるわけです。そ
ういうのを見るにつけ、いままで
言ってきたことが、「ああ、我々が
教えられてきたことがでたらめだつ
たんだな」と解る、そして得をして
いるのが誰かという、戦勝国で
す。日本を敗戦国の価値観の状態に
置いておくのが彼らの利益なわけ
です。けれど問題は、日本人が日本

の立場で歴史を語らない。これがい
ちばん問題でね。だから敵は、中国
でも韓国でも北朝鮮でもアメリカ
でもなく、むしろ我々自身であつ
て、頭が思考停止になってしまつて
いることが問題なんです。

さっき私の小学校の時の話しの
中にもあつたように、我々自身が
「なんであんな戦争をしたんだろ
う」と、負けるとわかつている戦争
なのにと考えることが大切なので
す。そこまでは小学生でもわかるん
ですよ。でもそこから先は大人にな
らないとわからない。でもなぜしな
ければならなかつたのか、それは永
い歴史の過程というものがあつて、
これは一言では言えないんだけど、
それを一人ひとりと考えて、いま
ま現実に起こっていることを、いま
まで教えられてきたことが正しいの

かということも摺り合わせて考えて
みると、見えなかつたものが見えて
くる、そういうことになるんじゃない
ですかね。
だから中国もいいことをやってく
れてるな(笑)と。いや、わからせ
るためにね、そう思うくらいです。

林

子どもたちにも、日本の
歴史というものを遡つて、
もちろん戦争を美化する
ような教育は良くないと思います
が、なぜこういふことがあつたのか
ということは伝えるようにしなけれ
ばいけないと思いますね。

子どもたちにも、日本の
歴史というものを遡つて、
もちろん戦争を美化する
ような教育は良くないと思います
が、なぜこういふことがあつたのか
ということは伝えるようにしなけれ
ばいけないと思いますね。

西田

僕は、戦争のことについ
てもっときちんと議論す
べきだと思つてます。外
国ならきつとそう言っていますよ。

我が国がなぜ戦つたのかということ
は、どこの国も必ず言っているんで
す。こちらに筋がある話しは言うべ
きなんです。筋道のあることを日本
はやつてきたんですよ。僕はそう
思っていますから、美化と言われて
も、やっぱりそこは大義名分も含め
て言うべきだと思います。だからこ

で、いまの慰霊祭などを見て文句を
言いたくなってくることは、英霊は
犠牲者で気の毒だという。それはも
ちろんお亡くなりになって犠牲者で
あることに間違いはないですが、しか
し「英霊」という限りは、秀でた霊
ですよ。立派な霊なんです。国
を守るために自分の命を投げ出して
亡くなった方々。それは、非常に価
値があることですよ。英霊は英霊
としてふさわしい対し方、処し方が
あるんですよ。コソコソとやるん
じゃなくて、やっぱり堂々と国家と
してその方々を顕彰すべきなんで
す。それともうひとつ、亡くなった
方を顕彰するのはいいんだけど、
靖国神社じゃなくて国立の追悼施設
をつくらうという話があります
が、これはまたナンセンスなことな
んですよ。日本人は、たとえばお正
月の初詣は神社や寺院に行つたり、
お葬式も結婚式も、なにかしら宗教
的な行為と結びついていっているん
です。それを放棄してわざわざ違うと
ころでやるということ自体、心の底から
拝んでいないということじゃないで
すか。そういうでたらめを言つて欲
しくないですね。言い訳のために
言っているだけです。そういうこ
とはもういい加減にしろ！と言いた
いですね。

林

戦争にいかれた方は、国のため家族を守るために自分の命を投げ打って戦い、そこで亡くなった後は靖國神社に祀られるという気持ちが強かったと思います。隣設の遊就館に展示してある遺書などを読ませていただくと、何か苦しいことがあったらお父さんは靖國神社で眠っているからここに相談に来なさい、とか書かれています。そういうものを読めば、新たな追悼施設などは全くの裏切り行為、背信行為なんです。政治家ましてや閣僚などは靖國神社参拝、英霊顕彰、追悼というのが第一の努めじゃないかと思えますね。

西田

とくに今の民主党の閣僚たちのやっていることというのは背信行為だけじゃなくて、戦後利得者の利益、つまり本当の日本人の利益じゃないんです。そういうのを守る代弁者に彼らはなっているんですよ。彼らは無意識のうちであるかもしれませんが、日本人を完全に裏切って、他所の人のために働いているんですよ。日本人自身の首を絞めているんです。

林

いわゆるA級戦犯でも、国民の四千万人ほどの署名活動があり、国会で赦免決議がされたわけじゃないですか。それによってその人たちの罪というのは無くなっているわけですし、それも裁いた国々にも了解を取ってやっているわけで、れっきとした法律で裏付けされたものであるにもかかわらず、まだA級戦犯という言葉が出てくる、というのもこれもまたおかしなことだと思っんです。



西田

そこはもうひとつの大事なポイントだと思えます。つまり法律上はまったく問題ないことなのです。たとえ問題があっても、憲法も含めて法律を改正すればできる問題なんです。

ところができるのは何故か。自分たちの正しい歴史観を見る目を奪われているので、A級戦犯といわれたらなにか不道徳などでもない人間だというふうに擦り込まれているんですね。そして憲法も問題があるのは事実だけれど、おかげで日本は平和な国になったんだと、擦り込みされているんです。だからそこで目を覚まさないといけないのです。ところがさつきから言うように、永い歴史の連続性の中であつたことを日本人自身解けないんです。実は自分たちが行っている、戦後の価値を守ろうとしていることが、モラル的に最低なんです。亡くなった先人たちに対する裏切り行為であると同時に、自分たちの子どもたちの利益を外国に売り払う行為をしているわけですから。とんでもないことをしていると言うことをみんなが解ればねえ。

林

本当に難しい問題だと思えますけれど、神政連の活動の中心は皇室の尊厳護持でありますし、教育問題も憲法改正問題についても早くこれは実現しなければいけないと、大きな事業の柱としてとらえてまいったわけです。

本日は、私共が次の五十年に向かって、どの様な考えのもとに活動をしていったら良いのかということにつきまして、西田先生にこうしてお話を聞かせていただきました。長時間に亘りご指導いただき本当にありがとうございます。

● 対談日 平成二十二年九月二十四日
● 場 所 西田昌司 京都事務所

※当日は約一時間に亘って対談いただきました。紙面には全ての内容を掲載できませんでしたので一部編集して掲載させていただきます。



5年の歩み

過去5年間の活動を
写真で振り返ります。

平成18年



11月21日 京都府戦歿英霊追悼慰霊祭・時局講演会

平成16年より継続して実行。
講演：「教育における不易なもの—今福田恒存に学ぶ」
講師：宮崎大学助教授 吉田好克先生
於：藤森神社



1月29日 皇室典範改悪阻止
京都国民総決起集会

皇室の正しい継承を期し開催された。
於：キャンパスプラザ京都



12月
8日・9日 沖縄・京都の塔慰霊参拝団

当本部創立30周年を機に平成13年より実施。
以後毎年かかさず慰霊参拝を継続中。



3月26日 靖國神社参拝団結成・
京都府出身戦没者慰霊祭

平成17年、大東亜戦争終結60年を機に参拝団を結成。
さらにこの年より京都府出身の御祭神を顕彰する
慰霊祭を実行することとなった。



12月12日 自由民主党京都府議会議員
合同懇談会

永年の念願であった、自民党京都府議会議員との懇談会が実現。
神政連宮崎会長が講演。
今後の活動の連携について初めての意見交換会を行った。
於：京都府庁京都府議会棟大会議室

神道政治連盟京都府本部

6月19日

第20回会員大会

講演：すばらしい皇室の伝統
講師：神道政治連盟副会長
後藤俊彦先生
於：京都センチュリーホテル



平成19年



**11月5日 京都府戦歿英霊追悼
慰霊祭・時局講演会**

講演：海の安全保障
講師：元防衛大学校国防論教室教授 山内敏秀先生
於：京都ガーデンパレスホテル



**5月29日 ありむら治子参議院議員
支援決起大会及び公職選挙法勉強会**

神政連近畿地区協議会主催による決起集会。
参議院選挙への必勝を願い一党力強く氣勢を挙げた。
於：ホテルグランヴィア京都



11月28日 京都の躰を語る女性の会例会

北野天満宮において38人が参加。
提言者である大文字女将今井真美子さんのお話と
舞妓さんの踊り、史蹟「御土居」の紅葉などを鑑賞した。



6月26日 第21回会員大会

講演：神政連の果たす役割
講師：神道政治連盟会長 宮崎義敬先生
於：京都センチュリーホテル



**12月14日 自由民主党京都府
議会議員合同懇談会**

第2回目となる懇談会が開催され76名が参加。
講演：「福田新政権の誕生と神政連の今後の課題」
講師：國學院大學教授 大原康男先生。
於：リーガロイヤルホテル京都



**7月24日 ありむら治子候補選挙
広報活動**

四条烏丸交差点付近にて役員を中心に約20名で選挙チラシを
配布した。ありむら議員はその後見事当選を果たした。

平成20年



11月
25~27日 沖縄・京都の塔慰霊参拝団

24名参加 この年の慰霊参拝団は、例年の京都の塔での慰霊祭に加え、摩文仁の丘で行われた世界連邦日本宗教委員会主催「世界平和の祈り」合同慰霊祭でも奉仕参列した。



7月4日 第22回会員大会

講演：神政連活動とその現況について
講師：神道政治連盟幹事長 打田文博先生
於：京都センチュリーホテル



12月3日 京都府戦歿英霊追悼慰霊祭・時局講演会

講演：近くて遠い九段と市ヶ谷
講師：キャスター・ライター 桜林美佐先生
於：京都ガーデンパレスホテル

平成21年



維新勤王鼓笛隊 (平安神宮時代祭)

6月7日 天皇陛下御即位20年奉祝行事
「京の祭り舞台」開催

当本部と関係団体合同で平安神宮に於いて開催。観衆約3000名を集めた。



岩滝の獅子神楽 (丹後板列稻荷神社)



綾傘鉾棒振囃子 (八坂神社祇園祭)



胡蝶の舞 (石清水八幡宮石清水祭)



神若会北野天神太鼓 (北野天満宮)

平成21年



11月
18日~20日 **天皇后両陛下
御来京御奉送迎活動**

この年天皇后両陛下におかせられては、御即位20年祝賀のお茶会ご臨席のため御来京され、二日目には京都府立植物園を御視察された。



6月24日 **第23回会員大会**

講演：日本は侵略国家であったのか
講師：前航空幕僚長 田母神俊雄先生
於：リーガロイヤルホテル京都



11月26日 **京都府戦歿英霊追悼
慰霊祭・時局講演会**

講演：靖国神社と戦歿者追悼施設
講師：國學院大學教授 大原康男先生
於：京都ガーデンパレスホテル



8月26日~
9月1日 **第1回天皇后両陛下
写真パネル展**

約250名の来場者が訪れた。
陛下のお好きなチェロのミニコンサートなども行われた。
於：四条通ぎゃらりー西利



12月8日 **京都の躰を語る
女性の会例会**

いもぼう平野屋本店において開催。38名が参加。
ご主人 北村眞純様より伝統料理の歴史などお話しを頂いた。



11月
7日~12日 **第2回天皇后両陛下
写真パネル展**

御所も近く、サラリーマンや学生などの乗降も多い地下鉄烏丸御池駅にて開催。
於：烏丸御池駅ギャラリー



12月19日 **天皇陛下御即位
20年奉祝京都大会**

京都府内の神社関係団体を中心に催された記念式典。
溢れんばかりの参加者は2100名以上を数え、会場は日の丸の小旗と熱気に包まれた。
於：京都国際会議場



第二十四回会員大会報告

とき 平成二十二年八月十一日
場所 京都センチュリーホテル

去る六月十一日、京都センチュリーホテルを会場に、第二十四回会員大会が開催された。間近に参議院選挙も近づいているためか、例年にもまして大勢の会員関係者が詰めかけ、出席者は三百五十名に及び会場は熱気に包まれた。

第一部

第一部の式典は、齋藤副幹事長の司会で進められ、式辞として林秀俊本部長より、現在の民主党を中心とする政権与党の危うさを憂い、なんとしても自由民主党に政権を奪還してもらうためにも、まずはこの参院選で大きな勝利を得なければならぬ。どうかご協力を頂きたい。と挨拶があった。その後には、長年に亘り当本部の活動に役員として尽力され、今回の改選にともない職を辞された方々に、当本部「表彰及び懲戒に関する細則」に則り、それぞれ感謝状が贈呈された。尚、感謝状を受けられた方々の芳名は左記の通りである。

前副幹事長 山田敦子殿
前綱紀委員長 鈴木隆男殿
前財務委員長 宇佐美伸二殿

次に来賓の紹介がなされ、代表として神政連宮崎会長と今回の参議院選挙に京都選挙区より立候補を予定している二ノ湯智参議院議員よりそれぞれ鄭重なる祝辞を頂いた。

その後、梶幹事長より主な会務報告があり、第一部の式典を終了した。



第二部

第二部は、神道政治連盟会長の宮崎義敬先生より「神政連と山谷議員の役割」と題するご講演を頂くことになっていた。宮崎先生は、神道政治連盟の会長を三期十二年の長きに亘ってつとめられ、神政連が国民運動団体として大きく舵を切った後、幹事長・会長としてその運動の基礎を築かれたが、本年の役員改選に伴いその任を辞し、後任に職を譲られることが決まっている。今回は参院選に向けての講演の予定だったが、推薦議員ご本人が会場

にお越しということで、宮崎会長からは、間近に迫った参議院選挙に於いて、唯一神政連が推薦する山谷えり子議員はいかに信頼に足る候補者なのか、山谷候補を当選させ、政界へ再び送り込むことは、神政連にとつていかなる意味を持つのか、ということについて手短かに述べられ、その後は山谷えり子議員ご自身からお話しがあった。

議員からは、かつて最も美しいと謳われたわが国の国柄への回帰のための政策や、現政権への批判など力強く述べていただいた。特に、教育問題は深刻で、せっかく安倍政権で正しい方向に進み始めた教育政策も、昨年の政権交代により状況は一変、またもや時計の針は逆戻りし、さらに悪化の一途を辿って行っているという。

また、山谷議員は、「日本の領土をまもるため行動する議員連盟」の会長を務められており、特に最近問題となっており、対馬を始めとする国境に位置する島々への外国資本の進出等に大変な危機感を持っておられることなどをお話しいただいた。北方領土は当然ながら、今まで領土問題などの生じていなかった地域にまで、中韓の一方的な侵犯が激しくなっている。我々国民も、自国の領土が侵されている現状をしっかり注視し、政府は厳しい態度で対処するよう世論を喚起させていかねばならないと痛感した。

(堀川宏史)

第24回 神道政治連盟京都府本部会員大会



あしあと

事務局からの活動報告(平成二十二年六月〜十二月)

6月 水無月

- 平成22年
6月13日 : ●二之湯さとし事務所開き 中嶋事務局長出席(於 二之湯さとし事務所)
6月14日 : ●与謝支部神社総代会総会 林本部長出席(於 橋立ホテル)
6月22日 : ●山谷えり子決起大会 300名参加(於 大阪府神社庁会館)
 ●山谷えり子和歌山県決起大会 林本部長出席(於 ホテルグランヴィア和歌山)
6月24日 : ●第22回参議院選挙公示
 ●山谷えり子候補街頭演説並びピラ配り 20名参加(於 京都市内各所)
6月29日 : ●平成22年度第1回定例代議員会 61名出席(於 京都府神社会館)

7月 文月

- 7月 5日 : ●京都女子神職会40周年記念式典 林本部長出席(於 京都ブライトンホテル)
7月 7日 : ●二之湯さとし決起集会 関係者18名出席
7月11日 : ●第22回参議院選挙投票日
7月12日 : ●山谷えり子、二之湯さとし両参議院議員当選祝電打電
7月15日 : ●英霊にこたえる会運営委員会 中嶋事務局長出席(於 京都市役所)
7月19日 : ●丹波五支部連合総会 林本部長出席(於 ホテル綾部)
7月22日 : ●京都府神社庁 関係団体代表者懇話会 林本部長他出席(於 京都府神社会館)
7月26日 : ●伊吹文明政経セミナー 梶幹事長出席(於 京都国際会館)

8月 葉月

- 8月 3日 : ●京都府本部三役会 10名出席(於 京都國學院)
8月15日 : ●終戦記念日の集い 中嶋事務局長出席(於 靖國神社)
8月19日 : ●監査委員会 本部長以下10名出席(於 ホテルグランヴィア京都)
 ●田中庁長さんの神社本庁総長就任をお祝する会 正副本部長幹事長出席(於 ホテルグランヴィア京都)
8月25日 : ●丹後六支部連合総会 林本部長出席(於 ホテルマーレたかた)
8月29日 : ●中支部神社総代会総会 室川会計責任者出席(於 金刀比羅神社会館)
8月30日 : ●神政連中央本部選挙対策委員会 林本部長出席(於 神社本庁)
 ●稲田朋美出版パーティー 梶幹事長出席(於 帝国ホテル大阪)

9月 長月

- 9月 2日 : ●日本会議・京都平成22年度総会講演会 関係者出席(於 ホテルグランヴィア京都)
9月 3日 : ●第1回創立40周年実行委員会 20名出席(於 リーガロイヤルホテル京都)
 ●京都府本部役員会 26名出席(於 リーガロイヤルホテル京都)
9月10日 : ●神政連中央本部役員会 林本部長出席(於 神社本庁)
9月14日 : ●第2回創立40周年実行委員会 12名出席(於 リーガロイヤルホテル京都)
9月19日 : ●第39回交通慰霊祭 関係者参列(於 西陣織会館)
9月21日~22日迄 : ●英霊にこたえる会第3ブロック会議 70名出席(於 新都ホテル)
 ●緩喜神社総代会総会 梶幹事長出席(於 石川県)
9月24日 : ●西田昌司参議院議員との懇談会 林本部長以下5名出席(於 西田昌司事務所)
9月27日 : ●京都府議会議員懇談会準備打合せ会 林本部長・中嶋事務局長出席(京都府議会議員会館)
9月30日 : ●平成22年度第2回定例代議員会 57名出席(於 京都府神社会館)

10月 神無月

- 10月 4日 : ●京都府本部綱紀委員会 9名出席(於 平安神宮記念殿)
 ●第3回創立40周年実行委員会 16名出席(於 平安神宮記念殿)
10月 6日 : ●京都府神社庁神宮大麻頒布増強推進懇談会 林本部長参列(於 京都府神社会館)
 ●京都府神宮大麻頒布増強推進懇談会 林本部長出席(於 京都府神社会館)
10月 7日 : ●天皇皇后両陛下御入洛御奉送迎(於 京都駅)
 ●京都市上支部神職総会 林本部長出席(於 ホテル平安会館)
10月19日 : ●乙訓支部神社総代会総会 林本部長出席(於 長岡天満宮)
10月28日 : ●英霊にこたえる会京都府本部第33回定期総会 林本部長以下関係者出席(於 本能寺会館)
 ●第4回創立40周年実行委員会(於 本能寺会館)

11月 霜月

- 11月 4日 : ●洛北支部総代会総会 林本部長出席(於 京都ブライトンホテル)
11月 8日 : ●京都市上支部神社総代会総会 林本部長出席(於 護王神社)
11月 9日 : ●創立40周年記念大会・懇親会開催
 ●清政49号(創立40周年記念号)発行

御製を拝して

日の暮れし
広場に集ふ人と聞く
心に染むる「太陽の国」

昨年十一月十二日、前日米の大雨で心配された天候も回復に向かったものの、なお寒風が吹きつける皇居前広場に、天皇陛下の御即位二十年をお祝いするため、約三万人もの国民が集い、天皇陛下の御即位二十年をお祝いする。広場では音楽隊のパレードや全国の郷土芸能、神輿の練り歩きなどが華やかに行われ、第二部では、各界各層の祝辞や奉祝演奏などが続き、やがて日が暮れ、参加者が提灯に灯を入れ二重橋の方向を見つめる中、両陛下がお揃いでお出ましになりました。両陛下は、会場よりもさらに風が強く底冷えのするであろう橋上にとお立ちになり、この日のために作詞作曲され、人気音楽ユニット「EXILE(エクザイル)」が熱唱する奉祝曲「太陽の国」を熱心にお聞きになって下さいました。そしてその後陛下は「寒くはなかったですか」との慈愛溢れるお言葉を参加者に賜られました。陛下のお心遣いに会場の参加者は勿論のこと、テレビ中継を見ていた全国の国民が心温められたのではないのでしょうか。本年元旦に発表された御製には、「心に染むる」とこの折りのお気持ちを詠まれました。

(史)



清政 第49号 創立40周年記念号

●ご意見ご感想をお待ちしています。

投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールをお願いします。

宛先／神道政治連盟京都府本部「清政」編集室

ファックス／075-863-6664

電子メール／info@kyoto-jinjacho.or.jp



このロゴマークは、わたくしたちの会名である「神道政治連盟」の英訳の頭文字SAS (Shinto Association of Spiritual Leadership)と日本古来の装飾品である勾玉(マガタマ)をデザイン化したものです。

発行日 平成22年11月9日(火)

発行所 神道政治連盟京都府本部
〒616-0022 京都市西京区嵐山朝月町68-8

電話 075-863-6677

神政連ホームページをぜひご覧ください。
<http://www.sinseiren.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション